

# 随想



カット／元川嘉津美

## ゴルフのこと

元川嘉津美

△画家△



今日は勤労感謝の日、祭日である。東京から単身赴任で我が家にきている長男が退屈とみえて饒別に貰ってきたゴルフのドライバーを座敷の中で振る様な真似をしている。狭い室内のこと素振りという程のことは出来ないで精々一尺位い敷物の上を擦る程度に止めている。小遣いをやるから打ちっぱなしでも行って来たらと言ったが行かなかったようで夕方おすしを買って来てくれた。

サラリーマンの単身赴任というのは不自然な生活を強いられるこ

とで些か殺生だと思う。

一家を挙げてというのが一般的なのだが子供の進学やマンションを買入れていること等がそれを拒んでいる大方の理由であろう。

時折り会社の招待等でゴルフに出掛けているが余り上手でないのかいい賞品を持って帰ったことがない。私はゴルフは決して悪いとは思っていない。緑の芝生の上を歩いて、いい空気を吸って、頃合いの運動にもなり、ストレスの解消にもなるというものだ。

戦争に負けてアメリカとの交流が盛んになりゴルフが導入って来ると急激に各層に広がって行った。戦前はほんの一部のエリートだけの特権のようなものと思われていたのであるがそれが大衆化されたのである。

日本は敗戦で台湾を失い、また

朝鮮、樺太をも失って国土は甚だしく狭くなった。

今、その狭くなった国土に一億二千万の同胞が締めき合っているのである。

それにも拘わらず一千三百箇所のゴルフ場を持つている。ゴルフアーの数も一千万を越すという。

国破れて山河あり、城春にして草木青しと言う言葉があるが緑の丘や、山の林を無慙に切倒し土砂をブルドーザーで押し平す光景は自然破壊の何ものでもない。私達画家は自然の姿を大事に保存して欲しいと思っているのでこんな光景は全く見るに忍びない思いがするのである。

殊に困ったことに柿の木がゴルフのウッドに良いということで農家に業者が札束を見せて買い取り次から次へと切り倒してゆくそうである。何十年も育って、年毎に赤い実をつけて自然の風景に彩どりを添えて来た柿の木も姿も消えて行こうとしているのである。

私はこれを称してゴルフ公害としたいのである。

巴里の町に隣接するブローニュの森は東京の新宿区全体位いの大ききであるが自然の姿がそのまま大事に残されて市民の憩い場所となっている。車で郊外を走っていると道路標識に鹿の絵が出ているが野生の鹿が飛び出すから注意

せよということである。

私の知る限り、フランスでもスペイン、イタリアでもあれだけ広い大地を車で何時間走ってもゴルフ場を見たことがない。また町でゴルフ用品を売っている店舗も無いのである。どんなに自然の森や農場を大切にしているかが判る。その点は画家から見て羨やましい気がするのである。

私は或るライオンズ倶楽部で講演した折りこのことを訴えるときにも賭ゴルフの問題も指摘したことがある。ゴルフ場は更にこの上開設される機運にあるとか、なんとか思い止まって欲しいものと願わずにはられない気持ちである

## 人間ウオッチング

芦川 照葉

△相愛女子短大国文学研究室助手△

「脚本づくりのプロセスは？」という質問をよくうけます。私流の方法を一寸御披露いたしましょう。まずこれは当然のことながら



尾上菊五郎氏、松本幸四郎氏に囲まれて

何を描くかということを決めて、それについて資料集めをします。次に集めた資料を頭にたたきこんで数日間シェイクしていますと、話の筋立てが発酵し、ついに爆発してその勢いで原稿用紙の上をペンが突っ走るといわけなのです。が、最大のポイントは何シェイクしている段階で様々なエッセンスを加えるということです。このエッセンスとは、今現在私の回りに生きている人々。登場人物の性格づけとして生の人間を使うというのが一番よろしいようで……。しかし誰でもエッセンスになり得るといわけではありません。ピリッとした個性が人一倍強い人でないと使えないものにならないのです。最近はこの材料に適した人間が少なくなってきた、脚本を描く上でおいに不自由しています。面白味のない半端な人が氾濫しているからです。今回国立劇場で上演されました拙作「北洲霊異」で最も使用したエッセンスは、個人名をあげて恐縮ですが、邦楽の藤舎呂悦氏です。氏は、神戸つ子主催の「神戸邦楽銘撰会」にもよく御出演で今邦楽界では人気ナンバーワンの鼓奏者です。その磊落で陽気なお人柄に惚れこみ、踊りの温習会で必ず年一回は舞台で御一緒させていただくという気安さから頼みこんで、エッセンスになっていただけ

きました。氏の行動をじっと観察し、色々なお話をうかがっているうちに、登場人物の人物像というもののはっきりと浮かび上がってきます。この会話は面白いからどこかで使おう。「こういう動作を登場人物にさせよう。」と氏の分身が脚本の各所にばらまかれてあります。同じ手法で恐らく小説を書くことも可能でしょう。芝居の台詞を考える難しさとは、それを生きた人間の言葉として観客の耳に伝えなければならぬところです。こういう場合に人はどういう言葉を口にするかということに常に考えていないと、心をうつ台詞は生れて来ないのです。早い話が、「己れ、何をする」と「何をする己れ」では、文字にしてみれば同じことを言っているながらも、それがひとたび人の口から出たならば、かなりニュアンスの違ったものになります。耳に心地よく響いて、話の内容も容易にわかるという言葉を私は常に考えていると思っています。それでまず大切なことは自分自身が、良きにつけ悪きにつけ様々な人生経験をより多くつむこと。心の機微がわかるようになるれば、まこと、魂の吐露とも言える名台詞が生れて来るでしょう。そのためにも「人間ウオッチング」は今の私に課せられた重要な仕事です。ところで、どこかに面白い



方はいないものでしょうか。誰か私の研究材料になって下さい。

## 新春人麿談義

村上 翔雲（書家）



僕が柿本神社の近くに住みついて、かれこれ六、七年になろうか。

年によって初詣をしたりしなかったりの仲である。だから僕は、この神社の縁起なんてほとんど知らない。僕にほんの少しばかりの歌才でもあれば、人麿に関する一家言も持ち得たろうに——、まあ、無いは無いで気楽でいいや。

こんなグータラな僕にだって古傷の一つや二つはある。時々その古傷がうずく。

今から十年ほど前、このグータ



昨年11月に錦画廊で行なわれた「万葉悲歌」展から

ラ男の背中をドヤシつけた奴がいる。その名は梅原猛。例の『水底の歌』を読まされてしまった僕は、何かワケのわからぬ、払いのけようにもどうにもならぬお荷物を背負っちゃったらしい。

一年が無事終わろうとするころになると、ふと、いずこからともなく「あれを、やり残したよな」と、つぶやくような低い声。それが何年も続くのである。

今年のボヤキは少々早かった。九月の終りごろであつたか、「あれを、やり残したらいかんよ」と、例の声である。

次第に「あれ」の正体が見えてきた。讃岐の狭岑（さみねのしま）と、石見国の鴨山のことなのである。僕があの人麿論を読んだとき、いつかこの二つの場面を書きしてみたい——と心に刻んだのである。それを人麿の霊が早く手がけよとサインクしているのだ。二つの場面とは——。

第一の場面は讃岐国の『沙弥島——狭岑島』梅原説によれば「人麿は流刑者としてこの島へ送られた」というのである。島送りは暴風の中で強行されたようだ。荒磯面（ありそも）に杲然と立ちつくす人麿の姿。その視線は、波音しげき浜への荒床に釘づけになっている。そこに倒れ伏す一この屍。この餓死せる先輩流人の無残な姿

は、やがて人麿自身の上にもやってくるに違いない。彼は身ぶるいしつゝ八家知らば 行きても告げむ 妻知らば 来も問はましを▽と、口走つてはみるものの、今の我が身ではどうしようもあるまい。

ここで場面は一転。第二幕は石見国である。そこで万葉集の篇者は、人麿の死をこう伝えている。

△柿本朝臣人麿、石見国に在りて臨死（みまか）らむとする時、自ら傷みて作る歌一首▽という詞書につづいて△鴨山の岩根し枕（ま）けるわれをかも知らにと妹が待ちつづあらむ▽。この歌の次に彼の妻の歌二首、そして丹比真人某の歌と、或本の歌に曰くの一音がつづく。人麿は、この二つの場面でもって、大会場を埋めつくしてみよ、と僕に言うのである。書の領域にも、長篇叙事詩的な大作、たとえば一つの物語を素材とした一〇〇メートルばかりの一作でもって大壁面を埋めつくす、といったような構想があっても良いじゃないか、というのである。先日僕は、その小手しらべとして、三宮センター街の画廊で一〇メートルばかりの作品を軸に、三〇メートルほどの壁面を埋めてみた。これからの十年がほどのうちに、僕はこのような書債を順次片づけていなくてはならないと、人麿さんと話しあっているところである。



●さわやか対談

# 「瀬戸内新時代の幕開け」

—淡路・くにうみの祭典にかける初夢—

坂井時忠 vs 兼高かおる

〈兵庫県知事〉

〈ジャーナリスト〉

★60年は新しい出発の年

兼高 あけましておめでとうございます。

坂井 おめでとうございます。昭和60年は日本にとって大変区切りのいい新しい出発の年だと思えます。"くにうみの祭典"や"ユニバーシアード神戸大会"が開かれますしね。ぜひとも兵庫の時代、神戸の時代にしたいですね。

兼高 今年は島がクローズアップされそうですね。日本も島国なんですけど、日本のように山があつて川があつてという島はすてきですね。

坂井 昔から楽園というか、ラダイスっていうのは、すべて島なんです。ロマンがあるのでしょうかね。

兼高 島といいますと、私、10年ぐらい前に島をいただきました。マールシャル諸島にある1200坪ぐらいの小さな島なんですけど、とってもいい島。内海の浅瀬には、それこそ日本でいえば1匹何万円もする熱帯魚がいましてね。もう少し深いところへ行けば、サメがたぐさいますけれど(笑)。

坂井 何か名前はあるんですか。

兼高 名前は"かおる・エレ(島)".人間は住んでいませんが、ヤシがたくさんあり、鳥がいっぱい巣を作っています。ちょっとしたバラダイスですね。

坂井 そこへはどうやって行くんですか。

兼高 ナジユロというマールシャルの首都まで飛行機で行きまして、そこからモーターボートで1時間ぐらい。いただいてから二度ナジユロまで行きましたが、二度ともモーターボートが故障してダメ。今年ようやく行ったんですよ。無人島なのに木にいたずら書きがほってあるんです。いただいた時にちゃんと注意書きを石に書いて立てる予定だったんですけど、それをしてなかったんですね。でも、たとえそれをして"入ってきてもいいけません"って言う人が誰もいませんからね。私は入ってはいけないじゃなくて、入ってもいいけれど、せっかく鳥が自分たちの楽園として暮らしているのだから、人間に壊されたくないんですね。だから、そこにあるものは絶対に壊さないでくださいって言うてるんですけど、伝える人がいなくて(笑)。



坂井 兵庫県でも昨年から『全県全土公園化構想』を進めています。これも、自然と人間の調和が何より大切だと考えたからです。永遠の理想を現実の政治なり社会なりで実現させたいというのは万人の願いなんです。自分たちの生活環境が美しい花園のような、そして鮮緑のじゅうたんに囲まれた公園のようなところであってほしいという願いを少しでも実現していきたいと思っています。古い歴史、文化を訪ねて世界各地を歩かれた兼高さんが、ぜひ行ってみたいと思われる場所の一つに、淡路島があり、神戸市があり、そして兵庫県がある、というふうにしたいと思うんです。つまり世界の兼高かおるさんが、そしてみんなが、行きたいと思われるような、魅力ある淡路に、神戸にしたいと願っています。

#### ★淡路は夢のバラダイス

兼高 この度のお祭りは淡路島全島が会場なんですよね坂井 今回は、淡路全島全土の公園化をめざす祭りでもあるんです。したがって、全地域を会場にしようということです。しかし、祭りの拠点としては、三つの大きな

公園を用意しています。一つが津名の埋立地に設ける「おのころアイランド」と名付けられた海浜カルチャー公園、一つが淡路ファームパークに設ける「太陽の公園」、もう一つは大鳴門橋記念館などの「うずしおプロムナード公園」です。これらは「くにうみの祭典」が終りましても、恒久施設として充実を図り、これからの淡路発展の活力源にしていきたいと考えております。そして、「おのころアイランド」の中に、兼高さんがイメージされている博覧会場をつくるわけです。大変広い場所ですが、芝生を張り、花をいっぱい植え、木を繁らせて、海とうまくマッチした会場にしたいと思っています。

兼高 私の担当は、「ミニチュアランド」、「ジオラマトンネル」と「兼高かおる旅の資料館」の三つですね。まず、ミニチュアランドは、これまでに私が訪ねた世界各地から誰もが一度は訪ねてみたいと思う名所、旧跡を八つ選びましてね、それらの建物を二十五分の一の大きさで精密に再現した野外公園なんです。展示するのは中国の天壇、イギリスのバッキンガム宮殿、西ドイツのノイシュバンシュタイン城、ギリシャのアクロポリス、アメリカのケネディ宇宙センター、インドのタージ・マハル、オーストラリアのオペラハウス、ソ連のピョートル噴水宮殿の八つなんですよ。

坂井 すばらしいミニチュアタウンですね。ゆっくり散策しながら、五つの大陸をひと巡りできるんですからね。兼高 もちろん歩いて見ていただいてもいいんですけど、ミニチュアの周囲に小さな電車を走らせて、それに乗って見ていただくんです。「S.L.ロケット号」っていうんですが、途中で暗黒のトンネルに入ると、テールサンゴの間を熱帯魚が泳ぐパラオの海、オーロラが輝く南極の氷原、轟音とともに





に熔岩のあふれ出すキラウエア火山、熱風の砂漠に立つピラミッド、オランダのチューリップ畑など七つのシーンがパツと浮き出すような仕組みになっていて、音響と光が一つになった感動の一瞬ですよ。ぜひ、見ていただきたいと思います。

坂井 兼高がおる旅の資料館では、20数年にわたって集められた世界の民芸品や民族衣装、生活用具などを見せていただけるんですよ。

兼高 私、意識して物を集めてきていないのです。今あるものを飾っていただくつもりですけども、残念ながらお見せできないものもずいぶんありましてね。例えば象の足とか象牙とかサイの角とか(笑)。

坂井 象の足なんか、よく持って帰れましたね(笑)。

兼高 荷物になるんですけども、珍しいということとでケニアから持って帰ってきました。片足ですけど。かわいそうなことですね。でも、私が買わなければ誰かが買いますからね。買う人がいるから殺すんでしょうけれど、もう最後にしてもらいたいですね。

坂井 おのころアイランドには、西宮に在住された京都大学の故阪口先生が残された蝶をはじめ、動植物を展示する自然科学館もつくります。そこには世界に一匹しかない蝶とか、東京農大の近藤先生が所有される、かつて宇宙船に乗ったのと同じ種類のかわいいリスザルとか、ノミのコレクションがあるんですよ。

兼高 ノミというのはピョンピョン飛びあれですね(笑)。外国の動物園は実際に動物をさわらせてくれたり、そばにいる人がいろいろ説明してくれたりするんですよ。何でもさわったり、臭ったりできる方が、ただ見ているよりいいですよ。

坂井 だから科学館の中の「光庭」ではリスザルやカビバを放し飼いにするんですよ。

兼高 日本では見に来る人も多いし、いいかげんにいじったりしなければいいですけど。

坂井 マナーを守らないとね。もう一つは、南方のきれいな花や熱帯植物を飾りたい。そして、それらの隣りにバザール、特に海にちなんだフィッシューマンズのお店をつくらうと思っています。

兼高 食べ物っていうのは国によって味が違いましてね。まず素材が違いますでしょ。それに日本では中国料理もフランス料理も全部日本ナイズしちゃうんですね。せっかくの淡路のお祭りですから、私はうず潮を見ながらお寿司をいただきたいですね(笑)。

坂井 以前に常陸宮ご夫妻が淡路島にお見えになったときも、にぎり寿司をたくさん食べられましたね(笑)。やっぱり材料がいいからおいしいんですね。

兼高 食べ物がおいしくないと楽しくないですよものね。その他にはどんなものがあるんでしょう。

坂井 淡路島出身の高田屋嘉兵衛の大きな像と彼の用いた船を原物大につくるんですよ。淡路に寺岡造船という会社があるんですけど、ここは深海を探検する船を造らせると世界一なんです。その社長さんがあらゆる文献を調べまして、高田屋嘉兵衛の乗った木造船を再現しようとしてくれているんですよ。それを陳列するんだけど、当時と同じように帆もつけますから、海の中でも実際に動かせるんですよ。

兼高 今の船って鉄でできていてつまらない。昔の木造りの方がエキゾチックですよ。



★花とミルクとオレンジの島は夢がいっぱい

おのころアイランドの話ばかりになってしまいましたけれど、ほかにも二つ会場があるんですよ。

坂井 淡路ファームパークという、淡路の農業を指導する試験場がありましてね。ご承知のように淡路は「花とミルクとオレンジの島」というイメージがあります。だから、ここでは花や果物や玉ネギの栽培など、淡路の産業、特に農業中心の試験場になっているんですよ。そこに、さらに花を植え、動物を集める。兵庫県と姉妹提携をしている北アメリカのワシントン州、南アメリカはブラジルのパラナ州、オーストラリアの西オーストラリア州、中国の広東省からそれぞれ動物や植物、花をいただいて、これらを中心にファームパークを開設しようと思っています。花を愛で、動物を見ながら、淡路の食べ物を楽しんでいただくというわけです。

兼高 それはいいアイデアですね。淡路には魚以外にもたくさんおいしい食べ物があるんですね。

坂井 果物もおいしいし、牛乳とか牛肉など、とにかく材料に事欠きません。これは、まだ私だけが思っているんですが、「ワカメの根」というのがあるんです。食べるとコリコリしてとてもおいしいんですよ。灰ワカメなど普通はやわらかい部分だけで、硬いところは取り除いてあるんです。葉っぱだけ残してスジのところは切りとって捨てているんですが、そのスジのところを小さくきさんで食べるわけです。この前淡路に行った時硬いところは売っていないかと聞いたらね、みんな捨てているとのことでした。これは誰にも教えないで、買い占めて売り出そうかと思いました(笑)。これに、ちりめんじゃ

こをふりかけて酔でいただくと、そりゃおいしいですよ。これは名物としていけますね。

兼高 淡路島にはいい材料がたくさんありますから、食べさせ方や売り方のノウハウを神戸あたりからもつてくれば、すばらしいものができるとは思いません。

兼高 架橋の記念館もできるそうですね。

坂井 橋の見える高台に大鳴門橋記念館をつくります。その記念館は、うずしお科学館と淡路人形浄瑠璃館の二つに分かれていましてね。うずしお科学館では、35ミリシネマスコープと16台のスライドを使った迫力満点のマルチ映像システムで、うず潮がなぜ、どのようにしてできるかを、立体的に映写して説明するわけです。3階に上がっていただくと、大鳴門橋が眼前に迫り、そこからプロムナードを歩きますと、橋まで行けるんですよ。さらに大鳴門橋の上の部分は自動車道で、下の部分には、ゆくゆくは鉄道を走らせますが、それまでの間、うず潮を見るゴンドラを走らせてみてはどうかと考えています。

兼高 そういうの、よそでは見ませんね。橋を歩かないでゴンドラで渡るなんて、とってもおもしろいアイデアですね。

坂井 歩くといけないのでゴンドラを走らせるんです。

兼高 ずいぶん立派な橋ですから、それを見るだけでも価値があるんじゃないでしょうか。

坂井 一六三〇メートルもある東洋一の大きな橋です。一、六五〇億の巨費を投じた大観光施設ができたと思えばそれだけでも価値がありますよ。これまでも、うず潮だけを見に来る人がたくさんあったことを考えると、橋だけでも相当の人が見に来ると思いますよ。ですから、



一万トン級、三千トン級の船をチャーターして、船旅を楽しむながら橋やうず潮を見て、帰りにおのころアイランドに寄る、という一泊二日の旅と日帰りの旅の二種類のツアーを考えています。

**兼高** 外国には島にかかる橋って少ないんですね。例えば香港島との間には橋がないでしょ。あそこはフェリーだけですからね。自動車は地下のトンネルを行き来するようになってますよ。淡路の場合は四国と本州の間にありますから、必要にせまられてつくったのかしら。

**坂井** そうです。やはり船だけでは、運べる人数が限られますし、天候が悪くなると止ってしまいますからね。今年、どのくらいの人が来てくださるかわかりませんが、一番の心配は本州側からどうやって淡路に行くか、ということですね。四国からは橋ができますから行き来も楽ですし、天候が悪くても帰れますが、本州からは船をチャーターしたり、今までの船便を増発してもらうわけにはなりません。それでもなお運びきれぬかどうか、誰からも文句がでないだろうか、という心配があるんです。できるだけ努力はいたしますが、どんなに努力をしても、いろいろと文句が出るだろうと思います。しかしまた、それが一つの狙いでもあるんですよ(笑)。文句が多ければ多いほど、なるほど明石架橋が必要なんだ、やはり橋はかけなければならぬ、と政府に理解してもらえる。そのためにも、お祭りは絶対成功させないといけません。

#### ★瀬戸内海は日本の地中海

**兼高** ヨーロッパってというのは、階段や歩道など公共のものを単に目的のためではなく、美しくつくり出すでしょ。橋もただ渡るためだけではなくて、周囲の景色とマッチしたときは、川のアクセサリみたいに目立つんですね。今は合理的な橋が増えていきますけれど、昔の橋は情緒があつてよかったですね。私ね、橋もいけれど、逆に島は島で生かしたいという気持ちもあるんですよ。

橋でつながないで。

**坂井** 瀬戸内海には三千の島がありますが、瀬戸内海は日本の地中海であり、エーゲ海だと思うんです。日本の文化はご承知のように韓国や中国から渡来しましたがみんな瀬戸内海を通ってきたんですね。ですから海のシルクロードともいえますね。

**兼高** 最近、かつてのシルクロード、新疆地区に行ってきました。あんなところに二千年も前から、人の行き来があつたっていうの信じられませんでした。人間っていうのは、やはり追求するんですね。中国は、東に行けば海でしょ。西は地続きだから、砂漠であろうと高い山であらうと雪山であらうと歩いて行つたわけですからね。すごいと思いました。今、私たちが飛行機で簡単に飛行してしまふところを二千年前は歩いたんですからね。雨が降って川ができ、地面が干上がって亀裂ができたとき、どうやって渡ったのか。夏は50度ぐらい、冬はマイナス20度でしょ。そんなところを行き来したんですね。

**坂井** 近頃は便利になりましたからね。  
**兼高** 本当にそうですね。ローマに初めて行きましたときは、東京から45時間ですもの。それでも平気だったんですから。今なんて、30時間乗ってもブルー言っちゃう。でも、日本って飛行場が少なすぎますね。このあいだ神戸から新潟に行った時もね、何と大阪から飛行機で羽田に行き、羽田から車で上野まで行って上野から大宮、大宮から新潟へと、えらいことでした。この小さな国でこれじゃ不便ですよ。

**坂井** 外国なんかへ行くと、近距離でも飛行機を使っていますからね。  
**兼高** ロサンゼルスとサンタバーバラみたいに、60マイルぐらいしか離れていない距離でも飛行機がありますからね。ペンシルバニア州一つでも、飛行機の離発着できるところが800ぐらいあるんですよ。あまり設備の整っていないものも含めてですけど。日本は安全とか設備と



かを言いすぎるんじゃないでしょうか。もっと簡単に造ったらいいいと思います。神戸には飛行場がないでしよう。

坂井 近畿がこれから発展していく上で中心になるのは大阪湾だと思っていますね。淡路は今、全く手つかずの土地ですが、将来的には必ず大阪湾で大きな役割を担うようになるでしょう。地方空港を建設したり、テクノポリスを計画したり。また津名の埋立地を東洋全体の大流通基地にしようというアジアポート構想も考えています。いまブラジルやオーストラリアから原料資源がたくさん日本に入ってきてますが、瀬戸内海は過密状態なんです。だから津名港に一たん荷物を下ろして、そこから区分けして岡山、高松、大阪などに持って行く、そういう中継の大流通基地を考えています。神戸港も大阪湾が埋め立てられてきますと、だんだん賄いきれなくなるんですよ。だから第2の神戸の外港として、そういう港をつくりたいと思います。空港も同じようなことが言えるんですよ。需要も増えていますしね。これぐらい車が増えて道路が混んできたら、近距離の飛行機を考えないと間に合わないんですよ。だから、泉南空港も必要、もちろん神戸沖も必要。それから滋賀にも奈良にもつくりなさい、学園都市にもつくりなさいと主張してるんです。

兼高 淡路と神戸ぐらいいの距離だったら、ヘリコプターサービスがあってもいいですね。

坂井 実は、今度のお祭りでは、本州から淡路へ渡る25人乗りのヘリコプターを考えているんですよ。おのころアイランドまで20分で着くんだからすごいですね。

兼高 ただ単にヘリコプターで行くだけではなくて、ヘリコプターに乗って行き、伊弉諾神宮で結婚式をあげるとか、何か演出をすればおもしろいと思いますよ。

坂井 それは素晴らしいアイデアですね。伊弉諾神宮は今年で神宮になってちょうど30年なので、お祭りの始まる4月21日には、生田神社の宮司さんをお願いして、全国から100人ぐらいの宮司さんに衣冠束帯姿で集まってい

ただこうと考えているんです。

兼高 100人も揃えなきゃいけないでしょうね。くにうみの祭典をきっかけに、瀬戸内海全体を考えていくことも大切でしょうね。

坂井 これからは、各府県がバラバラな考え方をするのはなくて、瀬戸内海の自然をどのように人間社会の発展と調和させていくか、環境の保全はもちろん大事ですが、積極的に生産や、観光や生活の場として、瀬戸内海を主人公にして、協力して進めていかなければならないと思いますね。私はかつて、兵庫県知事をやめて瀬戸内海知事になりたい、というエッセイも書いたくらいなんです(笑)。

兼高 それは大切なことですね。開発という名のもとに自然破壊を人間の手で行ってきたわけですから、これからは、自然と人間の調和を考えていたいただきたいですね。

(文責・編集部)

## 淡路——愛ランド博

### くにうみの祭典

●会期／昭和60年4／21～8／31

### おのころアイランド

第2期前売入場券発売中(3／31まで)

●前売券／大人1800円(当日券2000円)

中高生1080円(同1200円) 小学生900円  
(同1000円) 幼児360円(同400円)

●販売所／京都、大阪、兵庫県各旅行センター、  
主要旅行代理店、阪神間プレイガイド、灘神戸生協  
その他

●問い合わせ／おのころアイランド事務局・財21世紀ひ  
ようご創造協会

〒650 神戸市中央区中山手通6丁目1の1

☎078(361)8635代

謹賀新年 1985年

おのころアイランド会場建設企業連絡協議会

<p>株式会社 柴田工務店</p> <p>代表取締役 柴田 大作</p> <p>洲本市下加茂一丁目一六 電話〇七九九二(二)二五七七</p>	<p>竹治電業所</p> <p>代表者 竹治 茂男</p> <p>津名郡津名町志筑三三三 電話〇七九九六(二)〇四〇八</p>	<p>株式会社 中野設備</p> <p>代表取締役 中野 進</p> <p>洲本市水町三一丁目四三 電話〇七九九二(四)二九〇四</p>	<p>関西ハウス工業株式会社</p> <p>代表取締役 原田 寛</p> <p>津名郡津名町生穂一八〇三三 電話〇七九九六(四)〇三三一</p>	<p>日研工業株式会社</p> <p>代表取締役 増本 昭</p> <p>洲本市納三三三 電話〇七九九二(二)一一二四六</p>	<p>淡島水道工業株式会社</p> <p>代表取締役 山本 昇</p> <p>洲本市本町四丁目二二三 電話〇七九九二(二)一六七〇</p>	<p>神鋼ファウドラー株式会社</p> <p>代表取締役 西原 守</p> <p>神戸市中央区臨海町一丁目四七 電話〇七八(二五)一五五〇〇</p>	<p>泉陽興業株式会社</p> <p>代表取締役 山田 三郎</p> <p>大阪市浪速区元町一丁目三一五 電話〇六(六三)一〇五一</p>	<p>株式会社 森長組</p> <p>取締役社長 森 紘一</p> <p>三原郡南淡町賀集五〇一 電話〇七九九五(二)〇七二一四</p>
<p>淡路土建株式会社</p> <p>取締役社長 琴井谷 史郎</p> <p>洲本市桑間字ヒダ七〇六 電話〇七九九二(二)二五二五</p>	<p>ツルマキ電機株式会社</p> <p>代表取締役 弦牧 正治</p> <p>津名郡津名町志筑三三三 電話〇七九九六(二)四五四五</p>	<p>有限会社 赤井商会</p> <p>代表者 赤井 比登志</p> <p>洲本市本町一丁目三一七 電話〇七九九二(二)二五一七</p>	<p>株式会社 植捨組</p> <p>代表取締役 阪上 貞雄</p> <p>宝塚市雲雀丘二丁目一八 電話〇七二七(五九)九五〇五</p>	<p>関西造園土木株式会社</p> <p>代表取締役 抗本 克彦</p> <p>神戸市兵庫区下浜通二丁目二二 電話〇七八(五七五)〇四五</p>	<p>石井造園土木株式会社</p> <p>代表取締役 石井 実</p> <p>神戸市中央区八幡通四丁目一五 電話〇七八(二二)六一二三</p>	<p>富士造園土木株式会社</p> <p>代表取締役 金岡 昭雄</p> <p>宝塚市山本東二丁目六一七 電話〇七九七(八八)〇五〇一</p>	<p>淡路造園株式会社</p> <p>代表取締役 十川 宮繁</p> <p>洲本市本町四丁目二二三 電話〇七九九二(二)六二八〇</p>	<p>山口造園</p> <p>代表者 山口 孝夫</p> <p>津名郡五色町鮎原吉田五二三 電話〇七九九三(二)〇〇八六</p>
<p>カワノ設備工業株式会社</p> <p>代表取締役 河野 吉秀</p> <p>津名郡北淡町富島九一八三 電話〇七九九八(二)二一八一</p>	<p>河野電機興業株式会社</p> <p>代表取締役 河野 賢三</p> <p>神戸市兵庫区東山町一丁目一 電話〇七八(五一)三六六七</p>	<p>奥井清水園</p> <p>代表者 奥井 末男</p> <p>洲本市山田原三九五 電話〇七九九二(八)〇五五二</p>	<p>ミナト電気工事株式会社</p> <p>代表取締役 平井 邦雄</p> <p>神戸市中央区楠町六丁目一二 電話〇七八(三七)五五八三</p>	<p>中田水道工業株式会社</p> <p>代表取締役 中田 福市</p> <p>洲本市宇原六四五 電話〇七九九二(四)三四四七</p>	<p>五洋工業株式会社</p> <p>代表取締役 桂木 喜代治</p> <p>津名郡東浦町久留麻三六六 電話〇七九九七(四)三〇八二</p>	<p>株式会社 中田工務店</p> <p>代表取締役 中田 忠義</p> <p>津名郡北淡町富島西一〇二一 電話〇七九九八(二)〇三九〇</p>	<p>津田鉄工株式会社</p> <p>代表取締役 津田 資治</p> <p>津名郡津名町志筑三三〇七七 電話〇七九九六(二)一六六一</p>	<p>株式会社 電通神戸支局</p> <p>支局長 久本 嘉之</p> <p>神戸市中央区京町七四 電話〇七八(三九)九一一〇</p>



# ヨーロッパ・アジア・コンプレックス・トルコ

武田 則明△建築家▽



ハギヤソフィアの内部

トルコは日本から見るとヨーロッパより遠い。それは直接日本からトルコに入国する飛行機の便がなく、私も今回行くときは、アンカレッジ経由でロンドンに飛び、ロンドンから4時間余りでイスタンブールに到着した。黒海からエーゲ海に抜ける間にボスポロス海峡とマルマラ海がある。この海峡の東がアジアであり、西がヨーロッパである。トルコはヨーロッパとアジアにまたがった国であり、ソ連、ブルガリア、ギリシヤ、レバノン、シリヤ、イラク、イランと国境を接し、それらの国々とは利害があいなかばしており、世界のキナ臭い地帯にあるために緊張状態にある。多民族国家なので純粹のトルコ人は軍隊や公務員になっ

ていて、ギリシヤ人やアルメニヤ人が商売をやっているそうである。それはギリシヤ系トルコ人が軍隊に入ってもギリシヤ国境に送り込めないからだそう。このようなトルコの中でイスタンブールはヨーロッパとアジアにまたがる大都市である。コンスタンチン大帝のもとで栄えたコンスタンチノープルが一四五三年、オスマントルコの大王モハメッドⅡに陥落された、これが東ローマ帝国の最後であり、ビザンチン文化の最後の日でもあった。一つの都市の陥落が一国と一つの文化の終焉となる。現在、旧コンスタンチノープルの丘の上には巨大なモスクがそびえ立っている。世界最大のシェレイマニエモスク、六つの塔（ミナレー）をひかえるブルーモスク、そして有名なハギヤソフィアである。このハギヤソフィアは東ローマ帝国の最大の寺院であった。コンスタンチノープル陥落以後、イスラム教のモスクに改装され現代もイスラム寺院として使われている。イスラム教は偶像崇拜を厳しく否定しているので、世界

のどのモスクも抽象的な唐草模様かコーランの文字以外は装飾されていない。そのためにハギヤソフィアのあのビザンチン文化の金とガラスのモザイクの壁画の上から漆喰が塗られて、偶像を塗り込めて、モスクとして使用されていた。ところがある時にその漆喰の一部分が落ちて来て、その下からビザンチン文化の華といわれる金のモザイクのキリストの像が出て来た。現在の上に塗られていた漆喰を落としてしまい、その下から古くなったとはいえ絢爛たる金のモザイクのキリスト像や聖マリヤの像それに弟子達の聖人の像が現れてきた。このハギヤソフィア寺院の中心のドームの内部の天井の高さは約四七メートルもあり、この壮大な空間の中にキリスト教の寺院とイスラム教のモスクが混然一体となって存在している。一宗教として排他的な異なった二つの宗教が一つの空間の中に共存している姿は人間の狭い心から起きる宗教戦争をはじめとする全ての人間の争いがなんとみにくく、つまらないものに見えることか、また、世界史の重要な時に位置していた都市、そしてそのシンボルとしてのハギヤソフィア、そのドームの下で起きた人間の生きざまの重さをひしひしと感じる。これこそがヨーロッパとアジアを結ぶトルコの姿を象徴しているのではないだろうか。

# 鉄格子の中へどうぞ

軒上 泊／作家▽・カット／沢田大童

少年鑑別所から少年院への移送は、列車で行なわれる。少年たちは手錠を掛けられ、手錠の上に新聞紙などを置いて隠し、二人の教官につきそわれて、不機嫌な表情を隠さず移ってくるのである。私も、教官当時何度か連行役をつとめた。少年たちは不機嫌でも、我々教官は別に気分を害することとはなかった。

最寄りの小さな無人駅で降り立つと、そこから先は、少年院のトラックで運ばれていくのだ。少年たちは、今日ぐらいいはセドリックにしやがれ、と腹立っていたかも知れないが、私の場合は、少年院へ行くにはやはりトラックの荷台でなきゃあ、と楽しんでいたので。

石ころだらけの坂道を登りきって少し行くと、いよいよそこが少年院である。到着した少年たちの眼につくものは、とりあえず窓の鉄格子と、玄関を入ったすぐ右手にあるコーラの販売機ぐらいか。しかし、ここで少年たちに対して教官が口に出すやさしい言葉は「どうだ。疲れたか」止まりであって、決して「喉が乾いただろう。コーラでも飲むか」までは進展しない。

庶務課の前を通り、分類保護課へ着くと連行役の任務は終りだ。続いて考査係の教官が現われ、入院初日の作業を進めていくのだ。この係も私は何度かつとめた。少年たちは、まず私服を脱いで素っ裸になり、刑務所製の下着と室内服に着替え

ていくのである。そして、室内の廊下でさっそく散髪が始まる。窓からは戸外の景色が見えるが、どうせたいした風景ではないのだ。少年たちは、たいていじっと床を眺めているばかりだ。

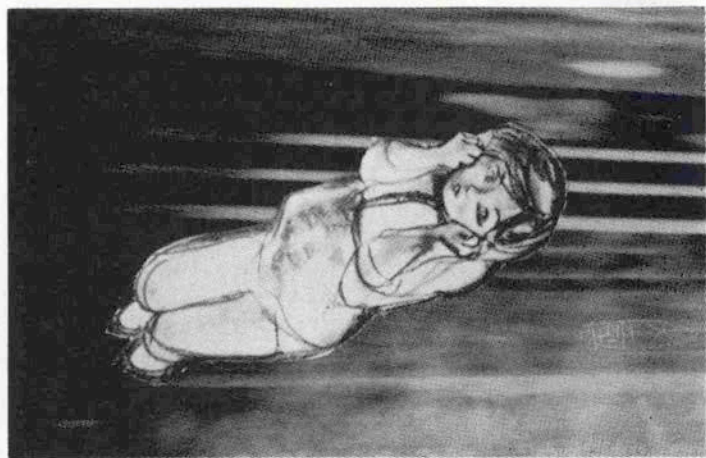
バリカンが頭を這うにしがたい、リーゼントやニグロのかけらが、次々と音もなく床へ転落していく。少年たちは、眼前を落ちていく髪を惜しそうに見つめ、床へ溜ったそれにいとおしげな視線を注ぐのだった。

しかし、その作業はなめらかに進むわけではなかった。教官採用試験においては、理髪師の資格などはまったく関係がないため、しばしば、バリカンの先が十代のデリケートな頭へ突き刺さるのだ。そのたびに少年たちは「痛っ！」と叫ぶが、教官は「辛抱しろ！」と言うのだ。そして当然だろうが、その散髪の仕上がりは、少年院ならではの著しいトラガリになっているのである。

そこがまたいいのだ。今時、トラガリにしてくれる散髪屋がどこにあるだろうか。せっかく、不機嫌な表情で少年院くんだりまで来たのだ。少年院はこうでなくては、と感じる大きな心を持たないといけないのだ。

頭を刺したり怒鳴ったりしながら散髪が終わると、少年たちははうきで床の毛を集めていく。時々頭にそっと手をあて、俺、本当は、リーゼントのほうが似合ってるのになあ、という表情を見せ





る。その顔は、大切に保存しておいたほうがいいのである。その上でトラガリを楽しむ姿勢が必要なのだ。

後片づけが終了すると、分類保護課の隣にある浴場へ向かう。当然お湯など沸かしてあるはずがなく、冬でもなんでも、かりたての丸坊主には刺激が強い冷水で洗髪するのだ。もちろん、エメロンシャンプーというわけにはいなくて、短髪をタワシがわりに使い、せっせと石けんの表面をきれいにしていくのだ。この時はたいい午後三時前後だから、浴場の窓からは西陽が斜めに指し込んでいる。真っ昼間に裸で頭を洗っている姿は十代後半の少年が行なえば、適当にみじめで、どこことなく暴力的で、見ようによっては淋しそうで、全体的には、初々しい感傷なども漂っている

光景なのだ。

「どうだ。さっぱりしたか」

「はい」

「なかなか立派な院生面だ」

「でも、先生、すごいトラガリですよ」

浴場の鏡でじっくり観察しているから、その発言には、動かしがたい事実の重みがある。しかしそこを無理やり動かすのが教官の腕の見せどころなのだ。

「あほんだら。がたがた言わんとさっさと服を着ろ！」

などと怒鳴っていた私であつたと思う。

そうして再び分類保護課へ戻ると、続いて、これから一年間使う官給品の数々に名前を書き込む作業がある。書かれた衣服を、少年たちは傍らできれいにたたんでいく……。

「どうだ。少しは、少年院の生徒らしい気分になったか」

「はい……」

「そうか。それじゃあ寮舎へ行くか」

その程度のやりとりを交して、少年たちは分類保護課から寮舎へ向かう。寮舎には外扉、中扉とあり、最後に独居の鉄扉を開けて中へ入ることになるのだ。いよいよ、鉄格子の中へどうぞというわけだ。鉄扉が大きな音を立てて締めまり、鍵が掛けられると、あとは本人が、とうとう閉じ込められたという思いを膨らませるばかりだ。

#### △著者紹介▽

昭和23年、兵庫県加東郡流野町生まれ。昭和48年から4年間、播磨少年院法務教官等の職歴を経て現在に至る。NHK教育「若い広場」の司会も好評を得た。著書にエッセイ「ブーアーマンズ・ナイトクラブ」小説「九月の町」ルポルタージュ「心の戦場」他。

● こうべ味な旅⑦

# 美女と豚マン

杉山義法

〈シナリオライター〉

カット・灘本唯人

この二年ばかり神戸の味とはご無沙汰である。

神戸とのお付き合いは52年に「風見鶏」を書いた時からで、半年程オリエンタル・ホテルに泊まり込んでアチコチ食べまわったのがソモソモの始まりである。元々戦時っ子だから食い意地が張っていて食べることにかけては異常な執念がある。それに輪をかけて、ご存じ「マカンブサール」(大食漢の意)僕は密かに独婦連と呼んでいる。時々毒の字を当てたくなる)の美女連に昨日は東、今日は西と引回しの刑に遭ったものだから、普通の旅行者では味わえない旅をさせて貰ったと感謝している。さて、神戸の味となると、高くて旨いのは当たり前、安くて旨くなければここに取上げる価値はない。その意味でお気に入りのNo.1を挙げればまずは南京街「老祥記」の豚マンである。東京では肉マンと言うが、成程、肉マンではなんの肉か分からない。最初に聞いた時はあまりに直接的な表



現でなんともおかしかったが、美女の花片のような唇から、突如「ブタマン!」と、あられもなく飛出す意外性がいかにも神戸らしい。勿論、味は天下一品、日本中の豚マンを食べた訳ではないがこの豚マンは日本一だと信じて疑わない。小振りでトロリとした薄目の皮が食欲をそそる。お店を改装してからはまだ覗いていないが、南京街の裏の細い路地に、誰にも気づかれないようにヒソソリと間口一間程の小さな店を構えた奥床しさ謙虚さ、歪んだガラス戸を遠慮勝ちにガタピシ開けるあの秘事(ひめごと)に似た昂奮、なぜか声も忍びやかな無声音になる。「豚マンありますかァー」「ああ、終わってしまったァー」と、いかにも気の毒そうな親父さんの豚マンに似た丸い笑顔が又いい。大体、僕が行くといつも終わっている。こちらの朝が遅いだから仕方がない。それでも親父さんの顔を見ると食べた気になって満足して



東京へ帰る。日本一とは本来そう言うモノだと自分に言い聞かせる。すっかりこの豚マン屋さんが気に入って、一度テレビ・ドラマの舞台に拝借したことがある。ジュディ・オング主演の東芝日曜劇場で、彼女に「老祥記」ならぬ「毛承喜」のフーテン娘を演じて貰った。「南イーに向いてる窓を開けェー」と彼女が歌って大ヒットしていた頃である。あのチョッピリ鼻にかかった声で「ブタマーン！」と、歌うように言うと、サツとひと吹き、エーゲ海の風が鼻面を撫でて行ったような心地がした。

ラーメンの部にうつる。夜が更けたら三宮駅前（浜側）の屋台を覗いてご覧、このラーメンは拔群だよ。特にチャーシューが旨い。名前は「天一軒」天下一品の天一である。近頃、妙に凝ってゴチャゴチャしたラーメンが流行りだが、すべからくラーメンはオーソドックスに限る。せいぜい塩味か醤油味のどちらか、好みを言うなら醤油味に越したことはない。ここのラーメンがまさにそれだ。東京にも築地の魚河岸の近くに「東京一うまいラーメン」という屋台のラーメン屋があるが、値段、ボリューム、味、ともにこれが東西ラーメンの双璧ではあるまいか。天一ラーメンには夜中に随分とお世話になった。

お次はカレーライスである。元町の浜側裏通りに外人船員などがよく屯（たむろ）するスタンド・バー「サンデー・プレス」がある。マスターは僕と同じ昭和七年一月生まれで、昔NHKの「のど自慢」荒らしで鳴らしたご仁。このなが旨いかと言えばマスター自慢のカレーである。味も作り方も全く普通のカレーなのに、ただのカレー

でないところがミソである。僕はこれを「イエスタデイ・カレー」と呼んでいる。ほかのお店のカレーはどうか知らないが、マスターの言によれば作りたてのカレーはまだルーに味が馴染んでいないので一晩寝かせたくらいの方が旨いのだと言う。そう言われてみれば我が家のカレーも作りたてよりは翌日の方が味がコクがある。そこでこのカレーは前日に作ったカレーを客に出す。「昨日のカレー」などと言うと、なにやら残り物のようで、マスターに叱られるかも知れないが、人様々にいろいろ工夫があるものだといタク感心した。カレーもビートルズも「イエスタデイ」に限る。

神戸で覚えて我が家の料理にも取入れたのが「すきやき」のテクニクである。加納町の坂を上って行くと左側に「とけいや」という大きなすきやき屋がある。ここのすきやきは「ワリシタ」を牛乳で割る。一瞬「ウヘッ」と思ったが、よく考えてみれば肉も乳も同じ牛ではないか、牛肉を牛乳で炊いてなんの不都合があろう。常々味が濃くなった時に水やお湯を差すのは動物愛護の精神に反するような気がしていたので早速我が家でもこの技術を導入した。おタクのすきやきはヒューマニズムの味がすると好評である。

「神戸のうまい物屋さん、根掘り葉掘り聞くと奴がおつても怒らんといて！」



本名・杉山義法（すぎやま・ぎほう）

昭和七年 新潟県生まれ。

日本大学芸術学部卒業。現在同校講師。

朝の連続ドラマ「風見鶏」「ヨロイドン」に続いて、NHKドラマ「宮本武蔵」（毎水曜8：00 PM）を放送中。

ビッグインタビュ―

裏千家家元

## 千宗室

特別寄稿

## 瀬戸内寂聴



## 今昔絵双紙〈9〉

田辺聖子

## 小説 太陽の発見者〈7〉

阿部牧郎

新 春  
特別対談

長谷川慶太郎 V.S 森口親司

日本の宝との出会い ● 高野山 赤不動

空から見た造形美 ● 「桂離宮」

因島城完成始末記 ● 奈良本辰也

## 特別企画 日本の名酒



美女登場

## 「大地真央」



大阪の曲り角 〓 木津川 計  
評伝・川端康成 ⑧ 〓 石濱恒夫  
上方味覚紀行 〓 楠本憲吉  
創造の世界 〓 大阪大学基礎工学部

新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

新年号 好評発売中 ¥580 (年間購読 ¥8,000)

関西ニューメディア・エージ／タウンジャーナル／西日本ホットライン／カルチャーカレンダー／今月の健康／名医に聞く／パーティ&シンボジウム／マンガ・小島功の好色一代男／BOOKレビュー／オラクル／エロチカ批評／ヤングのページ／

海外作家  
インタビュ―

ビクトリア・ムローバー  
エバ・オシンスカ

